

会場へのアクセス

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター 西館 1階 ガイダンスルーム

第1回～第3回、第5回～第7回 会場

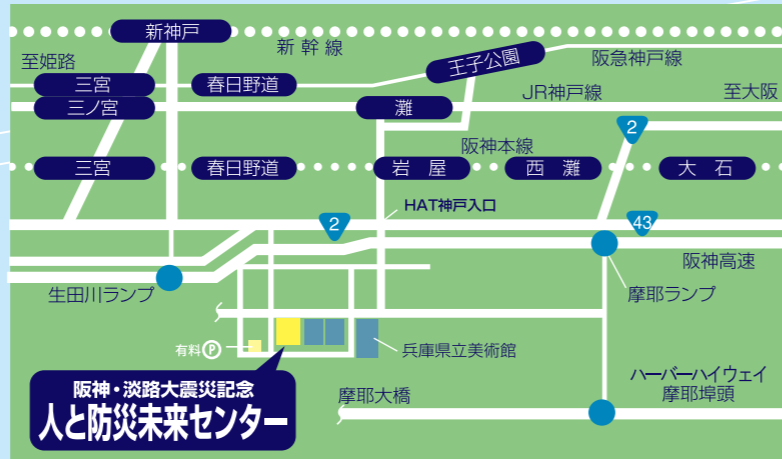
〒651-0073神戸市中央区脇浜海岸通1-2-5
TEL:078-262-5050 (観覧案内)

【鉄道】

- 阪神電鉄「岩屋」駅、「春日野道」駅から徒歩約10分
- JR「灘」駅南口から徒歩12分
- 阪急電鉄「王子公園」駅西口から徒歩約20分

【バス】

- 神戸市営バス(路線バス) 三宮駅前から約20分
- 阪神電鉄バス(路線バス) 三宮駅前から約25分



神戸市立地域人材支援センター

第4回
「災害かたりつき研究塾 冬合宿 in 兵庫」共同開催
会場

〒653-0042 神戸市長田区二葉町7丁目1-18
TEL:078-646-8128

【鉄道】

- JR・地下鉄「新長田」駅から南へ徒歩約13分
- 神戸市営地下鉄海岸線「駒ヶ林」駅
出入口1より西へ徒歩約6分



お申し込み・お問い合わせ

■お申込方法

WEB サイト (<http://www.hitobou.com/kenkyu/>) または E-mail (hitobou-shiryoushitsu@dri.ne.jp) から
お申し込みください。下記の参加申込書により、FAX (078-262-5062) にてのお申し込みも可能です。

■お問い合わせ

公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構 人と防災未来センター資料室 担当：石原・高森
TEL：078-262-5058 FAX：078-262-5062 〒651-0073神戸市中央区脇浜海岸通1-2-5 人と防災未来センター資料室

人と防災未来センター 災害ミュージアム研究塾2013 参加申込書

ふりがな お名前	参加日程 ※希望する日程全てにチェックしてください。 <input type="checkbox"/> 第1回：9月14日(土) <input type="checkbox"/> 第2回：10月5日(土) <input type="checkbox"/> 第3回：11月16日(土) <input type="checkbox"/> 第4回：12月8日(日) <input type="checkbox"/> 第5回：1月25日(土) <input type="checkbox"/> 第6回：2月8日(土) <input type="checkbox"/> 第7回：3月15日(土)
所属	
電話番号	
E-mail	
備考	

※ご送いただいた個人情報は、災害ミュージアム研究塾2013の申し込み目的のみに使用いたします。
※申し込み受付後、受付確認および詳細をFAXまたはメールにて返送します。
お申し込み後、5日以上経過しても返信がない場合は、お手数ですが、お問い合わせ先までご連絡ください。

多様な かたりつぎの カタチ

人と防災未来センター 災害ミュージアム研究塾2013

<http://www.hitobou.com/kenkyu/>

人と防災未来センターでは、設立以来10年にわたり、国内外の災害・防災の資料収集や展示に取り組んでいる施設・団体とのネットワークづくりを通じ、災害の資料展示のあり方を探ってきました。

昨年度開催の災害ミュージアム研究塾2012では、日本全国から災害の展示や資料の取り組みに携わっている講師をお招きし、各事例を通して災害の記憶の伝え方について議論しましたが、参加者の皆様から、実際に被災地に行って語り継ぎの最前線を学びたい、メディア(手記、ミュージアム、災害遺構等の媒体)を通じた記憶の伝え方について学びたいという声が多く寄せられました。

そこで、被災地での語り継ぎを現場に訪れて学ぶ「災害かたりつき研究塾※」を開催するとともに、加えて、災害の記録を伝えるメディアをテーマとした7回シリーズの公開セミナー「災害ミュージアム研究塾2013」を企画しました。リアス・アーク美術館の学芸員による東日本大震災の展示に関する報告の他、センターの役員・震災資料専門員が取り組んでいる研究内容を報告し、メディアの役割やそれを通じた伝え方について学んでいきたいと思います。

災害資料の展示・活用の最前線を学ぶ貴重な機会です。興味のある方はぜひご参加ください。

※「災害かたりつき研究塾」の詳細はURLを参照ください。 <https://sites.google.com/site/saigaikk2013/>

主催 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター 研究部・資料室
協力 神戸市立地域人材支援センター

参加費無料
先着順

お申し込み方法は
裏面参照



DRI 阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター

TEL 078-262-5050 FAX 078-262-5055 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 観覧案内

www.dri.ne.jp www.facebook.com/hitobou.kikaku [@hitobou_event](https://twitter.com/hitobou_event)

第1回

2013年9月14日(土) 14:00~16:30

災害ミュージアムができるまで + 人と防災未来センターこだわり展示ツアー

講師：人と防災未来センター 研究部長 村田 昌彦
人と防災未来センター 主任研究員 阪本 真由美



人と防災未来センターの展示

災害ミュージアムは、災害という出来事の記憶をとどめるモノを保存・収集し、それを展示として再構築することにより災害を伝えます。しかしながら、災害の記憶には、つらい記憶、悲しい記憶、忘れてしまいたい記憶もあり、必ずしもとどめておきたい記憶とは限りません。つらい記憶をとどめるべきなのか、災害という出来事を再構築する必要があるのか、災害ミュージアムの設置をめぐることは常に葛藤がみられます。ここでは、災害ミュージアムができるまでの経緯と葛藤を人と防災未来センターを中心に、世界各国の災害ミュージアムの事例を通してたどります。

また、人と防災未来センター設置に際しての想いと、センターこだわりの展示を展示ガイドツアーを通してご紹介します。

第2回

2013年10月5日(土) 14:00~16:00

共有するための展示

～リアス・アーク美術館常設展示「東日本大震災の記録と津波の災害史」での試み～

講師：リアス・アーク美術館 学芸員 山内 宏泰



「東日本大震災の記録と津波の災害史」の展示案内

リアス・アーク美術館(宮城県気仙沼市)の常設展示「東日本大震災の記録と津波の災害史」の目的は、時空間を越えて震災という出来事を共有し続けることです。共有するべきは《哀話・悲話》ではなく、《多くの課題・問題》です。

津波は単なる自然現象でしかありません。これが大災害となった原因は、これまで築き上げてきた地域の歴史、文化、社会の中に蓄積されてきたものです。戦後、特に1960年以降蓄積された災害の原因は、日本中の至るところで機が熟すのを待っています。その事実を知ってしまったために、そ世に伝えようとしています。

地域住民一人一人が課題を共有し、日々考え続ける場所を提供するために、《課題を投げかけ続ける展示》を追求し、平成25年4月3日、これを公開するに至りました。

単に見る展示ではなく、観覧者自身が自らの日常を振り返り、考えるための場所作り。そのために通常は用いられないことのない手法を用いた資料展示を行っています。その具体的な展示手法について、同展示の企画編集者である山内宏泰が紹介します。

第3回

2013年11月16日(土) 14:00~16:00

防災集団移転と住民生活

講師：人と防災未来センター研究員 渡邊 敬逸



中越地震の災害公営住宅

新潟県中越地震では、被災住民の生活再建手法として、防災集団移転促進事業(防集事業)が実施されました。ただ、その多くは「集団移転」ではなく、集落に残ることを選び、そこで今も生活を営む住民が大勢います。防集事業に関する多くの研究では、住民の移転先での生活適応や移転評価が検討されていますが、集落に残ることを選択した住民の状況はほとんど検討されていません。東日本大震災の被災地でも多くの集落が防集事業を活用した集団移転を検討していますが、中越地震同様の状況が起こることが予想されます。

新潟県中越地震のとある集落を事例に、防集事業のプロセスとその後の住民生活の状況から、集団移転後の生活課題を明らかにし、災害の教訓として皆様と共有したいと思います。

人と防災未来センター 災害ミュージアム研究塾2013

災害資料の展示・活用の最前線を学ぶ貴重な機会です。ぜひご参加ください!

災害ミュージアム研究塾 特設サイト <http://www.hitobou.com/kenkyu/>

昨年度開催の「災害ミュージアム研究塾2012」の記録もご覧いただけます。

第4回

2013年12月8日(日) 14:00~16:00

災害の記憶の忘却を防ぐことはできるのか

—3つの災害のかたりつぎからみえること—

※会場：
神戸市立地域人材支援センター



東日本大震災の語り部による講話

講師：京都大学防災研究所教授 矢守 克也

東北大学災害科学国際研究所 助教 佐藤 翔輔

長岡震災アーカイブセンター「きおくみらい」研究員 山崎 麻里子

人と防災未来センター 主任研究員 阪本 真由美

阪神・淡路大震災から18年、新潟県中越地震災害から9年、東日本大震災から3年が経過しました。時の経過とともに、変わりゆく語りつぎのあり方。かたりつぎことにより果たして災害の記憶の忘却を防ぐことができるのでしょうか。阪神・淡路大震災、新潟県中越地震、東日本大震災の各地の語り継ぎ活動からみえたことをふまえ、今後、災害をどのように語りついでいくのかを考えます。

※今回は「災害かたりつぎ研究塾 冬合宿 in 兵庫」との共同開催となります。

参照：<https://sites.google.com/site/saigaikk2013/>

第5回

2014年1月25日(土) 14:00~16:00

手記集から読み解く「災害体験」

—「伝承する」コミュニティの形成と連帯—

講師：人と防災未来センター 震災資料専門員 高森 順子



阪神・淡路大震災で発刊された手記集

災害のみならず、戦争をはじめとした様々な災禍が起こるたびに生まれる「手記」。そのなかでも、手記をひとまとまりにした「手記集」について、災害伝承の方法としての特徴を、発表者が事務局長を務める「阪神大震災を記録しつづける会」の活動を通じて紹介します。1995年から10年10巻に亘り編纂された手記集に収められた、執筆者それぞれに唯一無二の「災害体験」の具体例を紹介し、手記集を介した災害伝承活動の広がりについてお伝えします。

第6回

2014年2月8日(土) 14:00~16:00

災害の記録と伝承

～写真、まち歩き、そして、語り～

講師：人と防災未来センター 研究主幹 宇田川 真之



現地で、被災当時の様子を映し出すアプリケーション(イメージ)

地域の過去の自然災害の被災状況や、その後の復興過程を知るために、自治会や学校、あるいは、遠方からの修学旅行生などを案内する、防災まち歩き活動が各地で行われています。しかし、神戸では、阪神・淡路大震災から20年近くも経過したことから、震災時の状況や、その後の復興の経緯が、目にはあらわには見えにくくなっています。

そこで、震災時の街のすがたや、その後の再建の様子を、現地で、誰でも、わかりやすく知ることができるよう、タブレット・スマートフォンのアプリケーションを作成しました。こうしたアプリケーションを使うなどして、まち歩きによって過去の災害の伝承などに取り組んでいる、地震、水害、そして、津波の被災地の人々の活動の様子を紹介します。災害の記録と伝承における、映像、まち歩き、そして語りの役割について、話し合えればと思います。

第7回

2014年3月15日(土) 14:00~16:00

災害遺構を保存・活用する意味

—「場」をつくるために—

講師：人と防災未来センター 震災資料専門員 石原 凌河



災害遺構として保存されている被災校舎

東日本大震災以降、災害の記憶を伝えるメディアとして、災害遺構が注目を集めています。しかしながら、保存により地域へ与える影響が大きいことや、保存のための制度的枠組みが存在しないため、東日本大震災の被災地では、保存に至らなかったり、合意形成の過程で住民間の対立を招く事例が見受けられます。そこで、日本における災害遺構の保存・活用事例や課題を紹介しながら、記憶継承にも地域にもメリットをもたらす保存・活用のあり方を参加者の皆さんと共に考えていきます。